

1. 目的

- 人獣共通感染症であるSFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染するほか、症状のある犬猫では、唾液を含む体液中に大量のウイルスが排出されることがあり、SFTSを発症した犬猫から、濃厚接触による人への感染も報告されている。
- これまで、SFTSの感染予防策としては、屋外でのマダニ対策を主として注意喚起してきたが、近年、犬猫を介してSFTSウイルスに感染した可能性がある事例が相次ぎ報告されている。
- こうした状況をふまえ、本手引きは、犬猫における標準的なSFTS対策をまとめ、もって人の感染予防及び犬猫の適正飼養の指導に寄与することを目的としている。

2. 通常時の対策 ～SFTS予防のために～

1 飼い主の対策

- ① マダニ対策の徹底
 - ・ 犬猫にはマダニ駆虫薬を定期的に投与する。
 - ・ 散歩等で屋外からの帰宅時は、犬猫の体にマダニが付着していないか確認する。
- ② 感染を疑う症状が見られた場合の速やかな動物病院の受診
食欲低下、発熱（39℃以上）、下痢、嘔吐など

2 地域猫ボランティアなどで日常的に犬猫に接触する人の対策

犬猫に触った後は必ず手洗いする、過剰な接触は避けるなどの一般的な感染対策を心がける。
疑いのある犬猫を保護する場合は、体液に触れないようにする、咬傷に注意する。

3 公園など公共の場所で感染症が疑われる犬猫（負傷動物）を発見した場合

みだりに触らずに、速やかに管轄の保健福祉（環境）事務所へ連絡する。

3～4. 疑い発生時及び陽性時の動物病院における対応

～ 診断から治療の流れ ～

～ SFTSを疑う症例等 ～

飼育環境：屋外飼育あるいは自由に外出できる

臨床症状：発熱、元気・食欲低下、黄疸（猫）、マダニ寄生

血液検査：白血球減少、血小板減少 など

入院※1

検査依頼

検査陽性

※1: 確定診断前であっても、
原則入院による管理と
する

検査陰性

入院の継続

必要に応じて入院治療の継続 or 通院による治療

再検査
SFTSウイルス遺伝子の陰転を確認※2

※2: 3～7日ごとに再検査
2回陰転化を確認

退院

ウイルス排泄の可能性はゼロではないため、しばらくは濃厚接触を避けるよう、飼い主へ伝える

～ 処置をする際の主な注意事項 ～

- ・ 個人防護具の装備
- ・ ガウンは引っ掻かれても破れない素材のものを使用
- ・ 処置終了時の手洗いの徹底
- ・ エリザベスカラーの装着など咬傷防止対策
- ・ 咬まれた場合や体液等に汚染された鋭利器材で受傷した場合は、医師に相談（14日程度の経過観察）

～ 病院内での主なまん延防止 ～

- ・ 70%エタノール、0.5%次亜塩素酸ナトリウムが有効
- ・ 陽性時は、疑い時の個人防護具の装備に加え、グローブの二重着用が望ましい
- ・ エアロゾル対策
- ・ 針刺し、咬傷に注意
- ・ 動物病院スタッフの健康管理

5. 犬猫がSFTSと診断された場合の飼い主等の注意事項

○ 動物病院の獣医師の指導に従う。

○ 体調に異常が見られた場合は、すぐに医療機関を受診する。

人の潜伏期間は6～14日。犬猫に触れてから14日程度は体調に注意する。主な症状は発熱、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛など。受診する際は、「犬猫がSFTSと診断された」ことを申告する。